

公益財団法人日本バスケットボール協会  
2018年度 方針

◇方針

**【改革の実践】**

- ・ **JBS2016** を機軸とした新たな方針・改革路線の実行
- ・ 「**Break the Border**」精神のもと、バスケットボール界全体の体制改編・強化

◇2018年度 重点実施事項

- (1) 組織改変方針/新登録制度/D-fund 制度の実施とバスケット界全体の組織基盤（ガバナンス）強化
- (2) ワールドカップ 2019・東京オリンピック 2020 に向けた代表チームの強化と、審判/指導者/マネジメント人材の育成・強化
- (3) バスケットボール競技の価値向上に向けたマーケティング戦略の推進と拡大（**B.MARKETING** 社と協働）

【主な活動】

1. 関連組織ガバナンス

(1) **JBA、PBA、各種連盟、協力団体等のガバナンス体制確立とサポート施策の実行**

- ① PBA 連絡会、全国専務理事会、PBA マネジメント人材養成等を実施し、全国におけるガバナンス体制を確立
- ② 日本社会人連盟、全日本大学生連盟の機能強化と事業の推進への指導等
- ③ 日本障がい者連盟の新設による関連団体の統合
- ④ 協力団体（全国高体連専門部、中体連、専門学校、定通制、高専、スペシャルオリンピックス日本）との競技会における連携と推進
- ⑤ アンダーカテゴリー一部会（U12/U15/U18）活動・体制の確立と競技会制度再編
- ⑥ PBA 内における専門委員会/アンダーカテゴリー一部会等の活動の推進と対応
- ⑦ ブロック協会およびブロック事業における整備と役割の更なる明確化

(2) **2018年度新登録制度および D-fund 制度の運用の向上**

- ① 新登録制度の強化と競技者数の増加に向けた取組み
- ② D-fund 制度における PBA へのサポート体制確立

2. **JBA 組織運営**

(1) **事務局機能の強化**

- ① 人事労務整備：汎用化（ジョブローテーション）、生産性向上（時間外削減）の促進
- ② 財務経理整備：予実管理の精度向上

(2) **ALL BASKETBALL に向けた体制整備**

- ① 外部人材／機能の積極活用
- ② 全体最適と集約によるスケールメリットを得る仕組み作り

3. 代表関連

(1) **A 代表**

- ① 男子：ワールドカップ予選 2 次ラウンド進出、その後の本選出場を達成するため、定期的な国内合宿の充実を図ると共に強豪国との国際強化試合、海外遠征を増やし引き続き継続的な強化を図る。

→FIBA ワールドカップ 2019 アジア地区 1 次・2 次予選（年度中数回）、第 18 回アジア競技大会（8 月）

- ②女子：スペインで開催されるワールドカップにおけるメダル獲得に向け、各カテゴリーとの一貫通貫の強化体制のもと、海外での実戦経験を積み重ねる。  
→FIBA 女子ワールドカップ 2018（9月）、アジア競技大会（8月）

## (2) アンダーカテゴリー代表

- ①男子：U16 アジア選手権大会 2017（4月）、U18 アジア選手権大会（8月）における上位入賞、U17、U19 ワールドカップ出場を目指した代表の強化。
- ②女子：U17 ワールドカップ(7月)、U16 アジア選手権（10月）のメダル獲得を目標にする一方、次世代に向けた若年層の高身長選手の発掘と育成を推進。

## (3) 3×3

- ①男子は年間通してのスペシャライズ選手編成、女子は 3x3 シーズンにおけるスペシャライズ選手編成（一部は兼任選手を含む）による代表強化を実施。
- ②男女共に長身選手のオールラウンダー化、機動性の高いグループ戦術の遂行能力向上、フィジカル強化を図る。
- ③FIBA ワールドツアーを中心とした海外転戦を行い、世界トップレベルの競技環境下での強化。

## (4) 全般

- ①アルゼンチン、オーストラリアといった海外強豪国の協会とのパートナーシップ締結を目指し、その協定内容に基づいた強化プログラムの策定と国際試合開催等の連動。
- ②NCAA 等海外に活動拠点のある選手を、代表活動へ招集しやすくする関係性の構築。
- ③帰化選手、女子の外国籍選手の導入、そして海外で活動する有望選手の発掘。

## 4. 普及育成関連

### (1) 長期的視野に基づいた年代別育成方針/システムの確立

- ①リーグ戦文化の醸成と、その定着に向けた課題解決
- ②育成センター制度確立に向けた課題解決

### (2) 競技者人口拡大に向けた各カテゴリーの競技環境の整備

## 5. 指導者関連

### (1) 指導者の新ライセンス制度導入に伴う、体制とプログラムの展開

- ① 日体協制度の一本化における体制とプログラムの構築
- ② 指導者講習プログラムの充実
- ③ e-Learning の有効活用

### (2) 海外協会とのパートナーシップ提携も踏まえた人材交流の実施

## 6. 審判関連

### (1) 2019 年度審判インストラクター制度完全実施に向けて

- ①ライセンス別認定講習会の実施
- ②プログラム・カリキュラムの構築

### (2) 審判ライセンスの国内統一プログラム・カリキュラムの構築

### (3) 審判員数増加のための施策及び若手上級審判員の育成強化策の構築

### (4) 海外協会とのパートナーシップ提携も踏まえた人材交流の実施

## 7. 事業関連

### (1) 日本代表戦/各種大会の再設計及び価値向上策の推進

- ①ウインターカップ選手権化/天皇杯・皇后杯の第2次整備（大会方式の再整備）
- ②ジュニアオールスター/全国ミニのあり方検討
- ③国際大会やアリーナ改修スケジュールと集客を踏まえたベニューの確実な確保

### (2) 日本代表のブランディング強化と JBA を含めたバスケットボール界の VI 戦略の策定

- ①プロモーション/チケットティング/演出面の抜本的強化と効率的な展開
- ②観客視点でのホスピタリティ、サービス向上施策の実践

### (3) B.MARKETING 社と連携した効率的なマーケティングの推進

## 8. 広報関連

- (1) 従来の結果報道重視型広報からプロモーション連動重視型広報に方向転換  
プロモーション連動、ブランディングを視野に入れたプロアクティブな広報施策の展開
- (2) メディアリレーションの強化
  - ①メディアとの接触機会の創出
  - ②情報提供対象の区分明確化による各対象のニーズに応じた情報提供の実現
- (3) 公式 HP や SNS 展開の拡充と体制構築
  - ①外部委託体制の強化
  - ②JBA 各事業部門へのコンテンツ制作の権限委譲による外部発信体制の強化
- (4) FIBA とのリレーション体制の強化
- (5) B.LEAGUE、B.MARKETING 社との協働によるバスケットボール界全体の露出強化  
内部情報共有と進捗確認体制の構築
- (6) バスケットボールコンテンツ価値向上に向けた中期的広報戦略の策定
  - ①広報重点課題の洗い出しと KPI 設定
  - ②月次モニタリングと評価
  - ③プライオリティ付けした課題設定と対策の実行

以 上